

# 平成 30 年度 県立山北高等学校 不祥事ゼロプログラム

作成 平成 30 年 4 月  
中間検証 9 月

県立山北高等学校は、不祥事の発生をゼロにすることを目的として、次のとおり不祥事ゼロプログラムを定める。ただし、平成 30 年度は、県立学校重点課題総点検等を実施し、所属内の事務執行体制の実態を報告するので、平成 29 年度の不祥事ゼロプログラムを継続して活用する。

## 1 実施責任者

山北高等学校不祥事ゼロプログラムの実施責任者は校長とし、副校長・教頭がこれを補佐する。

## 2 取組項目と行動計画

昨年度に引き続き、今年度も次の 10 項目を重点課題とし、項目 (1) ～ (5)、(7) を 30 年度必須事項として具体的な行動計画を作成する。実施後に検証を行う。また、重大な不祥事やヒヤリ・ハットの事例が発生した場合は、随時研修会や報告会等を開くことで再発の防止につとめる。

### (1) 課題 公務外非行の防止（法令遵守意識の向上）（30 年度必須事項）

取組 公務員倫理意識の徹底

目標 全教職員が法令順守の意識を向上させ、公務員としての倫理観を保持し、公務外非行を未然に防止する。

行動 公務外非行に関する外部講師、並びに校内講師による研修会を実施し、職員の意識啓発と不祥事の発生防止を図る。

公務外非行の様々な事案や報道を随時報告し、法令遵守の意識の向上を図る。

検証 研修が実施できたか。全教職員が法令順守の意識を高めたか。公務外非行の発生がゼロであったか。

### (2) 課題 わいせつ・セクハラ行為の防止（30 年度必須事項）

取組 スクールセクハラ防止

目標 全教職員がスクールセクハラを正しく認識し、該当事案を未然に防止する。

行動 セクハラ（スクールセクハラ）やわいせつ行為に関する外部講師、並びに校内講師による研修を実施し、職員の意識啓発と不祥事の発生防止を図る。

検証 研修が実施できたか。全教職員がスクールセクハラを正しく認識できたか。スクールセクハラのほか、セクハラやわいせつ行為の発生がゼロであったか。

### (3) 課題 体罰、不適切な指導（30 年度必須事項）

取組 体罰や不適切指導の根絶

目標 全職員が体罰や不適切指導を未然に防止する。

行動 体罰・不適切指導についての研修会を実施し、体罰や不適切指導の状況についての確認を行う。

検証 研修会を実施することができたか。体罰・不適切指導の根絶に向けて、全職員が一丸となり取り組む体制ができているか。体罰・不適切指導の事案はゼロだったか。

### (4) 課題 進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止（30 年度必須事項）

取組 生徒の進路実現への適正な取扱い

目標 全職員が進路業務のマニュアルに従って適正な取扱いに徹する。

行動 進路業務及び調査書の請求から発行、生徒の手に渡るまでの流れの周知を研修会等で図り、共通認識で業務に当たることを確認し、実践する。  
検証 進路業務が適正に行われて、生徒の進路実現が達成できたか。

(5) 課題 調査書・通知表等の作成、成績処理に係る事故防止 (30年度必須事項)

取組 事故なき成績処理と調査書、通知表等の正確な作成  
目標 正確なシステム操作と点検業務の確実な実施により、間違いなく作成する。  
行動 調査書の重要性を再確認し、正確な業務運営を図る。  
検証 成績処理業務が事故なく運び、調査書、通知表等が正確に作成できたか。

(6) 課題 会計事務等の適正執行(備品の現物照合)

取組 適正な会計処理の徹底  
目標 不適切な会計処理を未然に防止する。  
行動 財務調査における指導を生かすため、適正な会計処理に関する研修会を実施する。年度当初に対策の徹底を図ることが肝要なので、不祥事ゼロプログラムが確定する以前であっても、できるだけ早い時期に適正な会計処理についての研修会を実施する。  
検証 早い時期に研修会が実施できたか。研修会により職員に適正な会計処理の意識づけを図ることができたか。年間を通じて、不適切な会計処理が1件も行われなかったか。

(7) 課題 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策(パスワードの設定、誤廃棄防止) (30年度必須事項)

取組 携帯電話への個人情報の適正な登録の徹底  
目標 携帯電話の個人情報の不適正な登録を未然に防止する。  
行動 個人情報の取り扱いに関する研修会を実施するとともに、各教職員の個人情報登録状況についての確認を行う。  
検証 研修会が実施できたか。携帯電話への個人情報の適正な登録について、徹底が図られたか。個人情報の不適正な登録をしている者がいないか。

(8) 課題 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守

取組 酒酔い・酒気帯び運転・スピード違反・人身事故の防止  
目標 酒酔い・酒気帯び運転を未然に防止する。交通ルールを順守させる。  
行動 交通違反、交通事故等の研修会を実施し、違反、事故、酒酔い・酒気帯び運転についての意識喚起と発生防止を図る。  
検証 研修会が実施できたか。全職員の意識啓発を図ることができたか。酒酔い・酒気帯び運転・交通事故及び違反の事案はゼロであったか。

(9) 課題 業務執行体制の確保等(情報共有、相互チェック体制、業務協力体制)

取組 円滑な学校運営のため、合理的かつ前向きな業務執行体制を確立させる。  
目標 職員が属する組織を公正だと認知し、管理職に信頼、尊敬という感情が抱けるようにして不祥事や不正行為を防止する。  
行動 不祥事防止会議で常に啓発を図る。また職員とは強固な信頼関係を築けるように尽力する。  
検証 外部講師による不祥事防止会議で啓発行動が起こせたか。毎日の朝の打ち合わせで意識喚起ができたか。職員と信頼関係が構築できたか。

(10) 課題 入学者選抜試験事故防止(入学者選抜全般、願書受付、学力検査、採点業務、選抜業務、)

取組 マニュアルの読み込みを徹底する。円滑な入学選抜と公正で正確な採点業務を行う。  
目標 業務執行体制の確立を図り事故ゼロを目指す。

行動 校内研修会を実施し、不明な点が無いよう情報共有を徹底する。マニュアルにそった採点業務の実施。チェック体制の確立を図る。1日の振り返りの実施。

検証 徹底した研修会ができたか。疑問点を全職員で共有できたか。毎日の朝の打ち合わせで意識喚起ができたか。職員と信頼関係が構築できたか。

### 3 中間検証

9月、中間検証実施予定。不祥事防止のために全職員を対象とした個別面談を6月に実施予定。

### 4 備考

平成 31 年 3 月上旬までに、それぞれの課題の検証についての実施状況を確認し、未実施があった場合は平成 31 年 2 月中に補完措置を講ずる。また、年度途中で目標達成に向けての行動計画を修正する必要がある場合は、必要な修正を行う。平成 31 年 3 月初旬にそれぞれの課題についての実施状況を確認するとともに、目標達成についての自己評価を行う。その結果を次年度における「山北高等学校不祥事ゼロプログラム」の策定に生かす。